



TROVA™



YTL-110
TROVA™を吹いてみよう！

協力：上田 じん
山口 尚人

このガイドブックでは、ヤマハ Trova (トローヴァ) の音の出し方や、演奏スキルを身に付けるためのヒントを解説しています。基本をしっかりとマスターし、演奏をお楽しみください。

* 楽器の扱い方の注意事項やお手入れ方法などについては、別冊の「取扱説明書」をご覧ください。

目次

導入編

Trovaで演奏できる音	03
音を伸ばしてみよう～ロングトーン～	04
音を区切ってみよう～タンギング～	05

基礎編

2つ目の音「ソ」を出してみよう～リップスラー&タンギング～	06
3つ目の音「ひとつ上のド」を出してみよう～リップスラー&タンギング～	07

応用編

4つ目の音「ミ」を出してみよう～リップスラー&タンギング～	08
5つ目の音「高いソ」を出してみよう～リップスラー&タンギング～	09

演奏例

ステップ1	10
ステップ2	11

導入編

Trovaで演奏できる音

吹き込む息の速さや唇(くちびる)の形を変えることで、以下の楽譜の音がだせます。これらは一般的なトランペット(B♭管)でバルブを押さずに演奏した時と同じ音です。

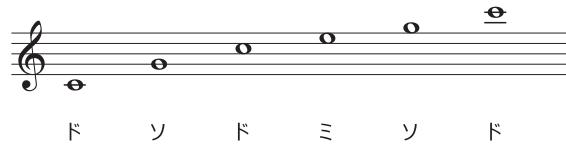
以下の楽譜は、上側がピアノ用の表示方法、下側がトランペット(B♭管)の表示方法で記載しています。

このガイドブックは、下側の表示方法で楽譜を記載します。

ピアノの楽譜 (in C)



トランペット・Trovaの楽譜 (in B♭)



デモ演奏1 (自然倍音)



最初の音「低いド」で音を伸ばしてみよう ～ロングトーン～

下の譜例のように、Trovaで音を伸ばしてみましょう。

テンポ記号
♩ = 60は、1分間に四分音符を60回打つ速さを示しています

1 2 3 4 Pu

1 2 3 4 「Pu(プー)」

何度か繰り返してみましょう。

1・2・3でテンポを感じます。4で息を吸って、次の小節の一拍目で「Pu」を発音するイメージです。息を楽器に送り込み音を出します。唇の真ん中付近から息を出すことを意識しましょう。
※この時はまだ舌(した)を使いません。



思い通りのタイミングで音が出せる様に何度かくりかえしてみましょう。

うまく音が出ない人へ

唇を固く締めていますか？

唇が柔らかく振動する様にリラックスし、息を楽器の中にやさしく送り込む様なイメージです。マウスピースは唇の下の上下の前歯の上の位置に置いて安定させます。歯と歯は少し開き唇と歯の息の通る狭間を一致させます。

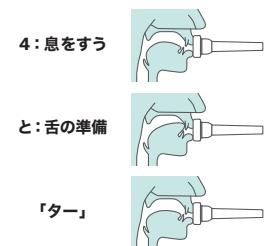


音を区切ってみよう～タンギング～

音を伸ばせるようになったら、テンポ(速さ)に合わせて音を区切ってみましょう。音を区切るのは、舌を使ったタンギングという方法を使います。

1 2 3 4 と「ター」

1～3拍まではテンポを感じ(頭の中で)カウントします。4拍目の前半分で息をすい、後ろ半分で舌を前歯の裏に置いて舌を準備します。音を出すときに「ター」と発音するように前歯の裏に置いた舌を少しだけ下げます。



慣れてきたら、区切る音の数を増やしていきましょう。

デモ演奏2(タンギング お手本+伴奏のみ)



2つ目の音「ソ」を出してみよう ～リップスラー&タンギング～

次は演奏する音を増やしていきましょう。音を変えるには、息の出し方や口の中のスペースを変える「リップスラー」という方法を使います。

まずは、「ア」と「イ」といった単語を、楽器を持たずに発音してみましょう。舌の位置が変わり、息の出方や口の中のスペースが変わります。楽器を使って同じことをやってみましょう。

リップスラー&タンギング譜例1

実際には発音しないで、舌の位置や口の中のスペースをイメージします。

1 2 3 4 と 「Ta」「i」「a」「i」「Ta」「Ti」「Ta」「Ti」「Ta-」

2, 3ページのロングトーンとタンギングも、「ソ」の音でやってみましょう。「ソ」の音が出来るようになったら、伴奏に合わせて演奏してみましょう。

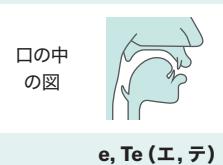
デモ演奏3 (譜例1 お手本+伴奏のみ)



3つ目の音「ひとつ上のド」を出してみよう ～リップスラー&タンギング～

リップスラーを使って、もう一つ高い音を出してみましょう。

今度は「ア」と「イ」に加えて、「エ」の発音を使います。



リップスラー&タンギング譜例2

ソは「エ」もしくは「テ」とイメージするといいでしょう。

リップスラー&タンギング譜例3

2, 3ページのロングトーンやタンギングを、「ひとつ上のド」でもやってみましょう。「ひとつ上のド」が出来るようになったら、伴奏に合わせて演奏してみましょう。

デモ演奏4 (譜例2, 3 お手本+伴奏のみ)



4つ目の音「ミ」を出してみよう ～リップスラー&タンギング～

「ア」「エ」「イ」の発音を使って、さらに高い音を出してみましょう。

リップスラー&タンギング譜例4

ソの音は「エ」もしくは「テ」の発音をイメージしましょう。

リップスラー&タンギング譜例5

上の譜例は音を1つ飛ばした練習です。

ミの音が出せるようになったら、伴奏に合わせて演奏してみましょう。

デモ演奏5 (譜例4, 5 お手本+伴奏のみ)



5つ目の音「高いソ」を出してみよう ～リップスラー & タンギング～

「ア」「エ」「イ」の発音を使って、さらに高い音にチャレンジしてみましょう。

リップスラー&タンギング譜例6

リップスラー&タンギング譜例7

高いソの音が出せるようになったら、伴奏に合わせて演奏してみましょう。

デモ演奏6 (譜例6, 7 お手本+伴奏のみ)



※本誌でご紹介したリップスラーの発音イメージは一例です。慣れてきたら発音方法に囚われず、演奏している自分自身が最も美しく音を出せる方法を探してみましょう。

演奏例

実際に演奏してみよう

ここまで練習成果を活かして、実際に演奏してみましょう。

QRコードから、デモ演奏と伴奏を聞くことができます。

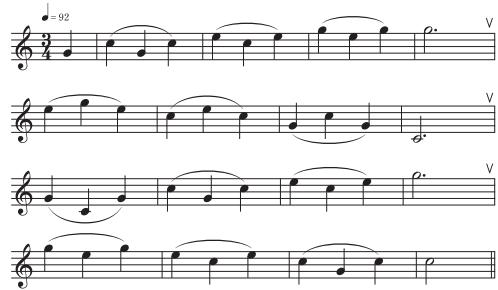
ステップ1A



デモ演奏7 (ステップ1A お手本+伴奏のみ)



ステップ1B



デモ演奏8 (ステップ1B お手本+伴奏のみ)



実際に演奏してみよう (上級者向け)

難しい曲にもチャレンジしてみましょう。

QRコードから、デモ演奏と伴奏を聞くことができます。

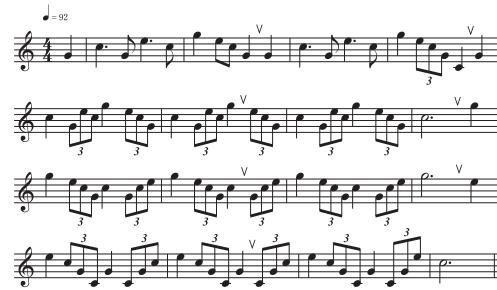
ステップ2A



デモ演奏9 (ステップ2A お手本+伴奏のみ)



ステップ2B



デモ演奏10 (ステップ2B お手本+伴奏のみ)

